

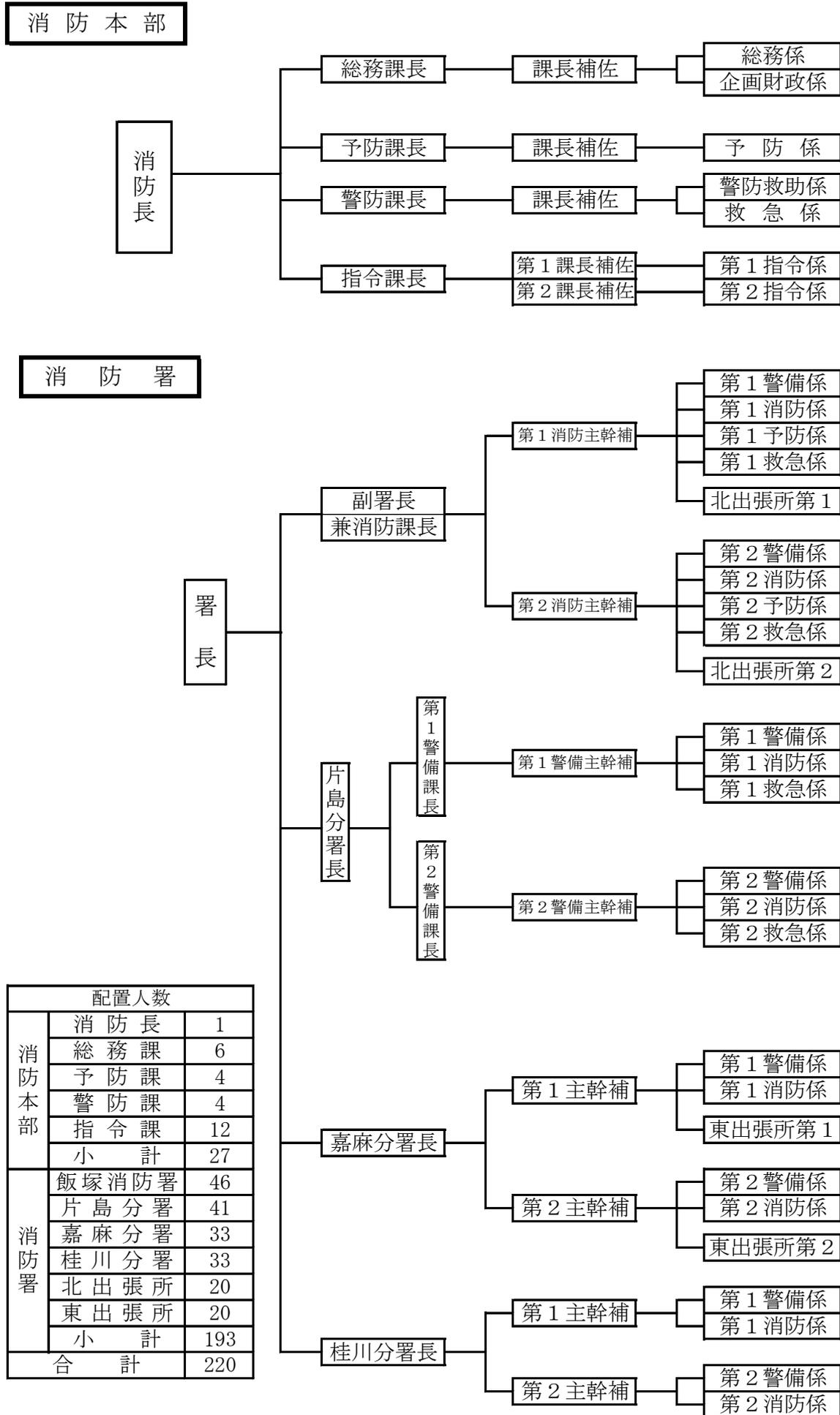
分 隊 配 置 表

飯塚消防署 警備人員 14名 消防車両等 7台	タンク車 4名	ポンプ車乗換	化学車 3名	救助工作車 4名	救急車 3名
	非常用はしご車	非常用救急車			
片島分署 警備人員 13名 消防車両等 7台	タンク車 4名	ポンプ車乗換	はしご車 3名	救急車 3名	指揮車 3名
	非常用消防車	非常用救急車			
嘉麻分署 警備人員 10名 消防車両等 5台	タンク車 4名	救助工作車乗換	ポンプ車 3名	救急車 3名	非常用消防車
桂川分署 警備人員 10名 消防車両等 4台	タンク車 4名	ポンプ車 3名	救急車 3名	非常用消防車	
北出張所 警備人員 6名 消防車両等 3台	タンク車 3名	ポンプ車乗換	救急車 3名		
東出張所 警備人員 6名 消防車両等 3台	タンク車 3名	ポンプ車乗換	救急車 3名		
合計 警備人員（指令室3名含む） 62名 消防車両等 29台					

※ 警備人員は1当務の必要最少人員とする。（日勤者除く。）

組織体制比較表

組織再編前					組織再編後				
課署所	配置人員 人	警備人員 人(隊)	消防車両等 台	その他車両 台	課署所(仮)	配置人員 人	警備人員 人(隊)	消防車両等 台	その他車両 台
総務課	7			3	総務課	7			3
予防課	6			2	予防課	4			2
警防課	20	5(1)	1	2	警防課	4			1
					指令課	12	3		1
飯塚消防署	62	20(7)	10	6	飯塚消防署	46	14(4)	7	2
二瀬派出所	8	3(1)	1	1	片島分署	41	13(4)	7	6
穎田派出所	10	3(1)	1	1					
庄内派出所	10	3(1)	2	1					
山田消防署	34	11(5)	6	2	嘉麻分署	33	10(3)	5	2
稲築派出所	10	4(1)	1	1	桂川分署	33	10(3)	4	2
嘉穂派出所	10	3(1)	1	1					
碓井派出所	10	3(1)	3	1					
桂川消防署	28	8(3)	4	2	北出張所	20	6(2)	3	1
穂波派出所	10	4(1)	1	1	東出張所	20	6(2)	3	1
筑穂派出所	10	3(1)	1	1					
合 計	235	70(24)	32	25	合 計	220	62(18)	29	21
※ 消防車両等はタンク車、救急車等の緊急自動車。(査察車、搬送車除く。) その他車両は消防車両等以外の車両。 ※ 警備人員は1当務の必要最少人員とする。(日勤者除く。)					再編前比	△ 15	△8(△6)	△ 3	△ 4



半径5キロメートルの理由

消防車の現場到着時間、平成23年中の平均時速45キロメートルにおける

※1分間の走行距離は750m

署所数の算定 延焼阻止の条件（消防力の整備指針より）

出動から放水開始までの所要時間が約6.5分を超えると急激に延焼が高まる。

（走行限界時間4.5分 放水準備期間2.0分）

走行限界時間 4.5分の場合 約3.38km

走行限界時間 6.5分の場合 約4.9km

水槽付消防ポンプ自動車(タンク車)と消防ポンプ自動車(ポンプ車)の検証結果

水槽付消防ポンプ自動車(タンク車)と消防ポンプ自動車(ポンプ車)との時間差が、2分20秒で距離に直すと、約1,750m

半径5キロメートルは、組合管内の過去10年間までの、火災発生件数の多い地域を全て包含できます。

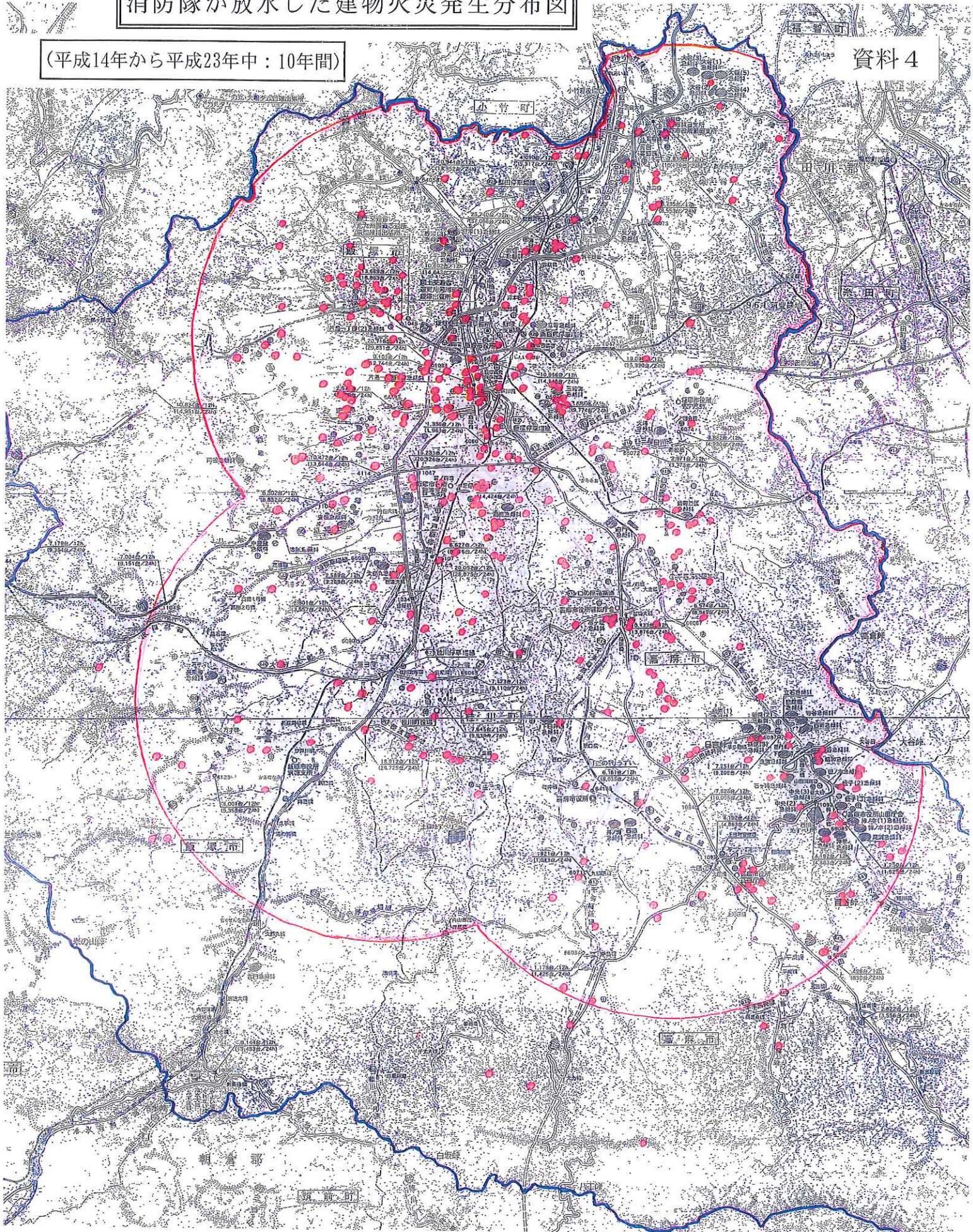
署所所在地

現在		組織再編後	
署 所	所在地	署 所 (仮称)	所在地 (予定地)
本部、飯塚消防署	飯塚市片島三丁目16番8号	片島分署	飯塚市片島三丁目16番8号 (現飯塚消防署)
二瀬派出所	飯塚市伊川546番地2	本部、飯塚消防署	飯塚市堀池交差点付近 (別図1)
穎田派出所	飯塚市口原19番地4		
庄内派出所	飯塚市有安889番地	嘉麻分署	嘉麻市牛隈交差点～大隈交差点付近 (別図2)
山田消防署	嘉麻市上山田1200番地1		
稲築派出所	嘉麻市鴨生262番地4	桂川分署	嘉穂郡桂川町豆田～飯塚市平塚付近 (別図3)
嘉穂派出所	嘉麻市上西郷91番地4		
碓井派出所	嘉麻市飯田1004番地14	北出張所	飯塚市仁保～佐與付近 (別図4)
桂川消防署	嘉穂郡桂川町大字寿命89番地の8		
穂波派出所	飯塚市忠隈396番地10	東出張所	嘉麻市鴨生口交差点～平交差点付近 (別図5)
筑穂派出所	飯塚市大分360番地2		

消防隊が放水した建物火災発生分布図

(平成14年から平成23年中：10年間)

資料 4



凡例

- 火災発生場所
- 組合管内
- 署所から 5 Km の範囲

管内全体の火災発生件数	357 件
5 Km 内での火災発生件数	348 件
5 Km 外での火災発生件数	9 件
5 Km 内の範囲での発生率	97.5 %

現行の火災防ぎよ戦術

水利部署のうえ、1台2線放水
4名体制

1線

2線



水槽付消防ポンプ自動車(タンク車)

水利部署



山田・桂川
各本署及び
穂波・稲築
各派出所

消防ポンプ自動車(ポンプ車)

水利部署



二瀬・穎田
庄内・嘉穂
碓井・筑穂
各派出所

水利部署のうえ、1台1線放水
3名体制

1線



水槽付消防ポンプ自動車と消防ポンプ自動車の検証結果

水槽付消防ポンプ自動車(タンク車)

火点直近部署

出動指令から
放水開始までの
所要時間
(1分10秒)

50mm × 各2本



放水開始時間差 = 2分20秒

消防ポンプ自動車(ポンプ車)

水利部署
(地下式消火栓)

出動指令から
放水開始までの
所要時間
(3分30秒)

50mm × 各2本

65mm × 6本



※ ホース1本の長さは20m。6本で120メートルです。120mは、消防水利の基準(平成12年1月20日消防庁告示第2号改正)により、防火対象物から一の消防水利に至る距離です。

新体制戦術

消防ポンプ自動車(ポンプ車)

水利部署

水槽付消防ポンプ自動車(タンク車)

火点直近

3線

1線

2線

4線

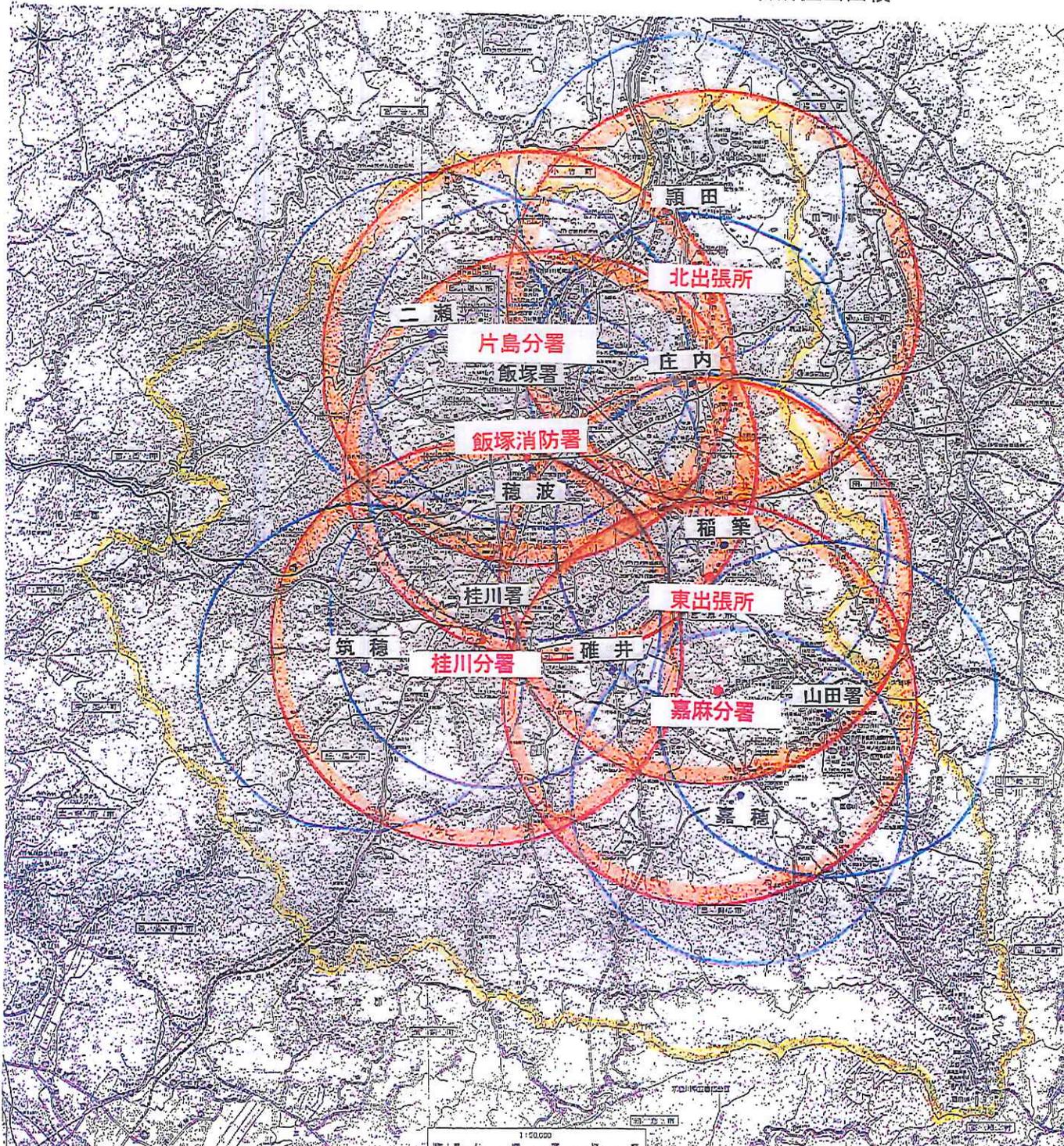


同時出動(救急支援活動)



新体制戦術のメリット

- ・火災現場に直近部署するため、迅速、効果的な人命救助活動、延焼阻止等が行える。
- ・全ての署所から、救急隊と消防隊とが同時出動することが出来、消防隊の迅速な救急支援活動が可能になり救命率の向上につながる。



凡例

現行の署所担当面積(11署所)
半径 4 km(※)

新体制署所担当面積(6署所)
半径 5 km(資料8参照)

※ 消防力の整備指針
出動から放水開始時間までの
限界時間を「6.5分」と示して
いる。
「6.5分」以内の範囲
署所から「4km」

